

ユスリカ科の仲間

Chironomidae sp.

ユスリカ科



(左)ヒゲユスリカ属幼虫。(右上)ユスリカの仲間。(右下)ユスリカの成虫
(成虫撮影：宮下 力)

名前の由来

成虫は体を揺さ振っている場合があるためと考えられる。漢字名：揺蚊

形態的特徴

幼虫の特徴：腹部末端の擬脚はよく発達し、先端は2分して対をなす。

成虫の特徴：カ（蚊）に良く似るが、動作が緩慢である。

カに見られる口針は見られない。

類似種と見分け方：ヌカカ科。

ヌカカでは腹部末端の擬脚が単一かこれを欠く。

生息環境・分布

きれいなところから汚いところまで広く生息する。

環境省・国交省水質調査：セスジユスリカは「大変きたない水」の指標。（清冽な環境に生息するユスリカもいる）

分布：国外では、世界中に広く分布。

国内では、普通に分布。北海道内では、普通に分布。十勝地方では、普通に分布。

食性・他の生物との関わり

幼虫は捕食性のものから腐植食性など多様である。（成虫は普通摂餌しない）

多くの捕食性生物の餌となる。微少な昆虫であるが、生息

環境・生態共に多様であり、生態系の下位種として重要な役割を果たしている。

繁殖生態・寿命

多数のオスが群飛をしていわゆる蚊柱を形成する。そこに飛来したメスと交尾をする。セスジユスリカはゼラチン状の物質内に300～400個の卵を螺旋状に産む。この卵塊は岸

近くの草や石等に付着する。

成虫の寿命は数日。世代数はさまざまで、2年間に1世代のものもあれば、1年間に数世代を繰り返すものもある。

興味深い話

■釣餌のアカムシ（セスジユスリカ）が有名である。非常に多くの種が有り、一般的な赤い種は貧酸素・汚濁に耐えるもので、清冽な環境に生息するユスリカは緑色や褐色をしていることが多い。多くの陸水捕食性小動物の餌資源として重要である。

けて（服を脱がすように）交尾をするもの等変わった生態を持つものがある。セスジユスリカのように大量発生し、不快害虫に指定されたり、アレルギーの原因としての衛生害虫になることもある。

■ユスリカ科は種が多いことからその生態も多様である。例えば、ヒラタカゲロウに寄生するものやメスの羽化を助

■カ（蚊）と混同され過剰に忌避されることが多いが、まったく吸血しない。

配慮事項

現在は保護の対象とはなっていないが、今後餌資源としての重要性和学術的価値から細やかな保全対策が求められる可能性がある。

また幼虫の餌となる落ち葉が供給される必要があり、河畔林の保全も重要。

生活サイクル

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--------|--|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 卵期・幼虫期 | [Blue bar indicating presence from Jan to Dec] | | | | | | | | | | | |
| 成虫期 | [Red bar indicating presence from Mar to Nov] | | | | | | | | | | | |

参考文献

「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995
「川の生物図典」財団法人リバーフロント整備センター 1996

「日本動物大百科昆虫Ⅰ」日高敏隆 平凡社 1996

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ